

長 第四十九兵站地區隊長

特設第二聯隊

兵站諸部隊より成り總員約三千なり

特設第三聯隊

野戰兵器廠を基幹とし總員約二千なり

特設第四聯隊

野戰貨物廠を基幹とし總員約一千五百なり

特設第二旅團

長 第十一船舶團長

特設第五聯隊

各海上挺進戰隊出撃後の殘留人員を以て編成する豫定にして

總員約三千五百なり人員の過半數は防衛召集者とす

特設第六聯隊

第七船舶輸送司令部沖繩支部、海上輸送大隊、滯留機帆船要

員等より成り總員約一千なり

3. 防空諸部隊の地上戰闘參加準備

軍の築城逐次進捗するに伴ひ且從來の敵の空襲効果にも鑑み戰闘開始後は有力なる防空諸部隊は其の本來の防空任務に使用するよりは寧ろ直接地上戰闘（對戰車、對舟艇、其の他砲兵の用法）に參加せしむるを有利と判斷し豫め戰闘開始後に於ける防空各部隊の第一線諸兵團への配屬並に配屬後の戰闘任務を豫定し之に基き築城其の他の戰闘準備を實施せしめたり斯くて地上戰闘に参加すべき防空火器は七、五糎高射砲約七十門、高射機關銃約百門（海軍所屬の機關砲約十門を含む）なり

4. 防衛召集

特設警備中隊、特設警備工兵隊の要員の外全島民皇土防衛に参加すべき精神に則り軍が昭和二十年一乃至三月の間に於て防衛召集せし人員左の如く本防衛召集に依り沖繩島民中滿十七才より滿四

丁五才迄の男子は始ど全員戦闘に参加することとなれり

イ海上挺進戦隊の爲の作業要員

ロ各海上基地大隊の主力を戦闘部隊に改編せし補充として在本島

四ヶ戦隊の爲合計約三千

ハ兵站地區隊の爲の作業要員

在慶良間群島各海上基地大隊の主力を戦闘部隊に改編し沖繩本

島に轉用せる補充として兵站地區隊長指揮下の水上勤務一中隊

と一小隊を之に充當せし爲新に兵站地區隊の作業要員として約

二千

ニ一般戦列部隊の爲前項以外の後方作業力を夫々増強する爲約一

萬五千

5. 男女中等學生の組織

沖繩本島内男子中等學校上級生を以て鐵血義勇隊を編成し之を各

戦列部隊に分屬せり一部人員は昭和十九年秋より通信兵要員とし

て教育中にして其の成績良好なり總數約一千五百

沖繩本島内女子中等學校上級生は昭和十九年秋より衛生勤務要員

として教育中にして總數約六百

十 天流航空作戦準備

軍は前述の如く獨目の立場を以て第三期作戦準備を計畫準備しつつ

ありしが比島に於ける捷一連作戦絶望となれる昭和二十年二月上旬

頃以來新情勢に應ずる大本營の作戦計畫(天流航空作戦計畫)漸次

明となれり本作戦指導の一般方針は南西諸島台湾・中南部支那沿岸

及南部佛印等東支那海島邊境に飛進する敵に對し陸海軍航空の可

動を力を入して之を殲滅せんとするに在りて南西諸島に敵の飛進

する場合を第一目標と呼稱せらるなり

昭和十九年十一月以來の軍の作戦方針は漸に變更せられたる天流作

戦の方針に合致せしを以て變改の要を認めず且此の作戦計畫の内容

は航空作戦に關する事項が主体にして地上作戦に於ては北、中飛行

場地島の防禦が部分的に問題となるに過ぎず

天一號作戦を觀察するに我が陸海の航空が南西諸島に決定する集中兵力は其の主刀とも考へられ其の強大なるは軍の頗る意を強くするところにして面おも戦闘方式が全部張り付け善攻主義にして成功の確實を期する點に於て益々然り即ち我が沖縄本島の各飛行場のみに於ても展開決定兵力は約三百機に近く軍は之が秘匿格納設備の完成に努力し三月中旬頃には全機展開可能の状態に在り

以上の如く天一號作戦に於ける航空作戦計畫は軍首脳部を感服せしむるものありしも敵の進攻時機を三月下旬乃至四月上旬と判断しつゝ航空部隊の實際の展開完了時機が四月末と計畫せられるは時機を失すも虞れ頗る大なり實際に於て是の展開せし進り計畫に甚く遺憾部隊は三月二十六日敵の上陸準備砲撃隊の最中隊が本島に到着せるのみにして他は沖縄本島には展開することなく戦闘準備せし

土航空關係準備

1. 軍は十月中旬の台湾沖航空戦に於て軍の努力に成れる各飛行場（主として伊江島及沖縄）に數百機の陸海航空を展開せしめ且之が出撃準備を援助し優渥なる勅語を賜はりしか爾後昭和十九年十一月より昭和二十年初頭に至る間比島決戦参加のため連日十數機乃至百數十機に及ぶ南下する陸海航空部隊の機動を援助し其の數概ね三千機に達せり

2. 比島航空作戦に鑑み我が航空の戦法が既述の如く張り付け特攻主義を採用するに至るや軍は之に即應する爲既に概ね完成せる南西諸島各飛行場の附屬施設特に飛行機の秘匿、遮蔽、掩護の諸設備擴張に努力せり又此の航空戦法に關聯し主陣地帯内に於て最後迄使用し得る飛行場を保持するの要ありと判断し首里北側に秘密飛行場の建設を始めたるも作業半ばにして戦闘勃發し其の目的を達し得ざりき

3. 沖縄南飛行場は昭和十九年七月一時之が設定中止を命ぜられ其の

盡なりしが昭和二十一年初頭より再び中央の命に依り作業を再開せ

り

因みに本飛行場は首里飛行場と秘密誘導路を以て連絡し相互有

一体の飛行場たらしむる計畫なりき

天源作戦計畫に基く航空部隊の沖縄展開が機に合せざるを看取せ

る事は三月に入るや沖縄本島に於ける全飛行場を即刻徹底的に破

壊するを有利なる旨意見を具申せり

蓋し伊江島の各飛行場、沖縄の北、中飛行場等は今や概ね友軍の

使用する見込なく我に價值なき多数の飛行場を完全に存置して敵

手に委ぬるが如きは採らざるところにして各飛行場保持の爲一聯

隊一旅團の兵力を比置するも其の持久日数は近日を出でざるべく

空しく数千の將兵を犠牲とするのみなり今断乎たる決意を以て徹

底的に破壊し置かば一兵も損することなくして以倍の日數を持久

し待べしとの理由に依るものなり

軍の意見具呈は直ちに認められず伊江島飛行場は破壊を許可せ

られた

依つて三月十日頃より漸に航空関係施設を以て之が破壊を開

始し三月末頃には機材の運送せる米軍と雖も之が補修には十日を

要すべしと判断せらるる程に修繕進捗せり

後 方 軍 備

人 兵 器 庫 係

比島存続の懸望状態に入るや大本營は四方國境輸送中の兵器を軍

に交付せり其の概数左の如し

小 銃 數千

輕 機 銃 約四百

重 擲 彈 約四百

重 機 銃 約二百

速射砲及機關砲 各約十

右兵器は第一線部隊及特設部隊に交付せり之を爲步兵兵器は著し

く充實し主陣地帯一軒に備蓄し、重砲各々約二十五、重機約十の密度となれり

2. 彈藥

各種火砲は一會戰分一隊重砲及高射砲に在りては一會戰分強を保有し、其の全數を第一線兵團部隊に交付保管せしめたり。但し輕迫撃砲は一門あたり僅かに三百發を保有するに過ぎず、陸海軍合して二百門に餘る有刀なる迫撃隊が二十分間の發射彈數を有するに過ぎざるが如きは實刀零に等しと謂はざるべからず、軍は昭和十九年秋以來自方手段を盡して彈藥の充實に奔走せしも目的を達せず、戰鬪勃發直前に漸く中央より代用として九二式歩兵砲彈藥十萬發の交付を許可せられたり。

然れども時機既に遅く、其の大部は輸送途中奄美大島附近に於て海没するか若は鹿兒島港を出帆する能はず、結局軍が機帆船に積み換へを行ふ等凡ゆる手段を盡して入手し得たるは約一萬五千發に過

ぎず多數の迫撃砲を擁しながら戰鬪に際し其の威力を發揮し得ざりしは遺憾の極みなり

3. 糧秣關係

集積量は各島嶼に依り若干の相違あるも各部隊概ね昭和二十一年九月末頃迄の分を保有せり、其の集積區分は彈藥と同様殆ど其の所要全員を各兵團部隊に交付し、軍としては豫備糧秣を保有せず

4. 燃料

自動車燃料は常に缺乏状態に在りて作戰準備を阻害せしこと大なり。作戰用燃料は各部隊をして嚴重に保管せしめたり。航空用燃料は昭和二十年一月に於て伊江島及沖繩北、中各飛行場に合計約五千本餘集積しあり、軍の状況緊迫に鑑み、萬一を考慮し其の大部を主陣地帯内に移送集積し置き、逐次所要に應じ前記各飛行場に補給する方式を取り、漸次態勢變換に勉め、特に友軍航空部隊の

展開不能の見込み判然とせる三月以降極力之が促進に努力せるも輸送難の爲意の如く進展せず戦闘開始後全量の三分の一内外を敵手に委するに至れり

築城及交通

築城は物量戦法対策として軍の最も重視せる事項の一なり
陣地編成は洞窟據點式とし洞窟の規模は一切の人員兵器、彈藥糧秣其の他の資材を之に收容し且其の強度は敵戦艦の主砲彈竝に一屯壕陣に抗堪することを且途とせり戦闘開始迄に完成せる主陣地帯内洞窟の總延長は約百軒なり
沖繩島には大小無数の自然洞窟一大なるものは一千人以上を收容し待一散在し著しく軍の築城を容易ならしめたり
陣地編成に當りては敵の攻撃を受けざる正面よりの兵力増強を願し各部隊は自隊の三倍兵力に應ずる築城の完成を期せしも昭和十九年十一月末實施せる作戦計畫の根本的變更竝に之に起因する

作戦準備日数の短少等の爲各部隊は自隊の築城のみを概成し得るに止まれり

對戰軍築城は其の必要性を痛感して努力し戦攻防禦たる陣地、陣地、地雷、地帯、及對戰軍隊の構築に主要交通線の阻害、防禦等を實施せり就中對戰軍隊の大規模防禦的の實施とんとする企圖ありしも作業の大部を飛行機設定に充當せしと作業日数の短少よりし急ぎの如く進捗せざりしは遺憾なり

洞窟帯、築城の爲には甚多なる坑木を必要とし一兵團にて數少の坑木を採りては不足なり沖繩島南部地域に於ては入手し難く遠く島外地域に運搬せざるべからず之が爲軍は其の傍地域を各兵團に分駐せし各兵團に之を運搬せし夫々坑木採集一師團に於ては自隊の兵士を基幹とせり一師團に於ては坑木採集に於ては採集地より築城地域への輸送は陸上輸送力の貧弱なる爲主として海運に依らざるべからず之が爲軍は島内に於て放棄し得たる別

舟約七十隻を各兵山に分屬し更に相方運航の機帆船及輸送船の部
 明港停留期間を利用し之を間隙輸送と稱し船隻輸送司令部沖繩支
 隊之に任ずりせり
 然れども昭和二十年一月以後は連日比島方面より飛來する砲の攻
 撃致に數度の大空襲に依り砲臺破壊せらるるもの多く且之を回避す
 る爲夜暗を利用せざるべからざる状況となり所望の如く輸送効率
 を發揮し得ざりき
 築城の進度は坑木の入手量に依り決定すとは各部隊の聲にして争
 言坑木なくして洞窟は掘開する能はず之を進行せば崩壊死傷續出
 するのみ坑木の入手難不足が軍の築城を遅延せしめたる點は眞に
 計り知るべからざるものありき
 道路の新設擴張
 軍は捷勝山準備の爲北、中東行場地區と南部島尻地區との間に
 軍用車の通り路として四條の道路を補修若は新設に着手し其の條

業方に概成せんとしめりしか攻勢企圖放棄後は其の必要なきに至
 れる爲之を中止し爾後は主陣地帯内特に首里南北に於ける砲兵機
 動の爲の道路網整備に専念せり

無線通信

1. 無線通信
 第十四方面軍及大本營との間には二通信系を保持す
 軍線下各島嶼守備兵團との間には航空通信をも含め概ね一通信系
 を保持す

沖繩本島内に於ける無線通信は國頭支隊及伊江島との間を除き開
 戦迄概ね訓練のみに止めたり

2. 沖繩本島内有線通信

概ね所望の如く完備せり

伊江島と本部半島との間には海底線を敷設しめり

3. 對他處保護装置

無線送受信所は分散し且洞窟内に收容し一部のものはコンクリート製とせり有線通信網中重要幹線は地下線とせり

電探は各主要島嶼に装置せり
沖繩本島於ては陸軍のみにては該ヶ所に設置し成績良好の際は百墩十軒、普通六、七十軒の地點に於て敵の進入を探知せり

5. 局地防補助通信として犬、鳩等も相當數準備し且之を利用せり

雲海軍部隊との關係
南西諸島には沖繩方面海軍根據地隊司令官及第四海上護衛隊司令官(同一指揮官兩者を兼ね)指揮下の部隊及び海軍航空隊關係の部隊配置せられり根據地隊及海上護衛隊に屬するものには防空隊、海岸砲台守備隊、護衛艦艇部隊等ありて航空部隊の配置と相調和し奄美大島、喜界島、沖繩本島、宮古島及南大東島に展開す
陸海軍の任務及指揮關係は皇土防衛要綱及西部軍(後に第十六方面軍)佐世保鎮守府間相互協定並に第三十二軍沖繩方面海軍根據

部隊一、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百一、一百二、一百三、一百四、一百五、一百六、一百七、一百八、一百九、二百、二百一、二百二、二百三、二百四、二百五、二百六、二百七、二百八、二百九、三百、三百一、三百二、三百三、三百四、三百五、三百六、三百七、三百八、三百九、四百、四百一、四百二、四百三、四百四、四百五、四百六、四百七、四百八、四百九、五百、五百一、五百二、五百三、五百四、五百五、五百六、五百七、五百八、五百九、六百、六百一、六百二、六百三、六百四、六百五、六百六、六百七、六百八、六百九、七百、七百一、七百二、七百三、七百四、七百五、七百六、七百七、七百八、七百九、八百、八百一、八百二、八百三、八百四、八百五、八百六、八百七、八百八、八百九、九百、九百一、九百二、九百三、九百四、九百五、九百六、九百七、九百八、九百九、一千、一千一、一千二、一千三、一千四、一千五、一千六、一千七、一千八、一千九、二千、二千一、二千二、二千三、二千四、二千五、二千六、二千七、二千八、二千九、三千、三千一、三千二、三千三、三千四、三千五、三千六、三千七、三千八、三千九、四千、四千一、四千二、四千三、四千四、四千五、四千六、四千七、四千八、四千九、五千、五千一、五千二、五千三、五千四、五千五、五千六、五千七、五千八、五千九、六千、六千一、六千二、六千三、六千四、六千五、六千六、六千七、六千八、六千九、七千、七千一、七千二、七千三、七千四、七千五、七千六、七千七、七千八、七千九、八千、八千一、八千二、八千三、八千四、八千五、八千六、八千七、八千八、八千九、九千、九千一、九千二、九千三、九千四、九千五、九千六、九千七、九千八、九千九、一万、一万一、一万二、一万三、一万四、一万五、一万六、一万七、一万八、一万九、二万、二万一、二万二、二万三、二万四、二万五、二万六、二万七、二万八、二万九、三万、三万一、三万二、三万三、三万四、三万五、三万六、三万七、三万八、三万九、四万、四万一、四万二、四万三、四万四、四万五、四万六、四万七、四万八、四万九、五万、五万一、五万二、五万三、五万四、五万五、五万六、五万七、五万八、五万九、六万、六万一、六万二、六万三、六万四、六万五、六万六、六万七、六万八、六万九、七万、七万一、七万二、七万三、七万四、七万五、七万六、七万七、七万八、七万九、八万、八万一、八万二、八万三、八万四、八万五、八万六、八万七、八万八、八万九、九万、九万一、九万二、九万三、九万四、九万五、九万六、九万七、九万八、九万九、十万、十一万、十二万、十三万、十四万、十五万、十六万、十七万、十八万、十九万、二十万、二十一万、二十二万、二十三万、二十四万、二十五万、二十六万、二十七万、二十八万、二十九万、三十万、三十一万、三十二万、三十三万、三十四万、三十五万、三十六万、三十七万、三十八万、三十九万、四十万、四十一万、四十二万、四十三万、四十四万、四十五万、四十六万、四十七万、四十八万、四十九万、五十万、五十一万、五十二万、五十三万、五十四万、五十五万、五十六万、五十七万、五十八万、五十九万、六十万、六十一万、六十二万、六十三万、六十四万、六十五万、六十六万、六十七万、六十八万、六十九万、七十万、七十一万、七十二万、七十三万、七十四万、七十五万、七十六万、七十七万、七十八万、七十九万、八十万、八十一万、八十二万、八十三万、八十四万、八十五万、八十六万、八十七万、八十八万、八十九万、九十万、九十一万、九十二万、九十三万、九十四万、九十五万、九十六万、九十七万、九十八万、九十九万、一百万

兵隊
丁二以上の海岸砲台
高射砲
高射機砲
重砲
軽砲
各約二百

配置
重砲
軽砲
各約二百



大部を以て小蘇海軍飛行場を以て陸軍陣地内に展開す
指揮關係

根據地隊司令官指揮下の部隊（海軍航空隊を含む）の大部は
小蘇飛行場周辺に於て展開し、更に第二十四師團長の下に
に入る。

沖繩北飛行場は海軍部又は陸軍部と
夫々第一師團長及び第二師團長の指揮下に入る。

第二十四師團の作戦地境外に在る一部の海岸砲台は平時より所
在兵隊を以て下に入る。

沖繩島民の處理

戦上の直接的な要求は勿論非戦闘員の無益なる損害を避け且全般的
の問題解決の爲に軍は昭和十九年夏以來南西諸島特に沖繩島民の
疎開を強行せり其の概況左の如し

島外疎開

軍隊軍需品輸送の空船を利用し沖繩島民は主として九州方面に又
宮古、石垣方面の島民は主として台湾に夫々疎開せしめたり戦闘
勃發迄は島外疎開せる人員は前者約八萬、後約二萬なり

沖繩本島内に於ける疎開

非戦闘員の全員島外疎開は軍の希望するところなるも海上輸送力
の制扼に島民の不決断に基因し疎開意の如く進捗せず茲に於て
昭和十九年末軍は皇土警備要綱の主旨をも考慮し激戦を豫期し沖
繩島南半部の住民を比較的安全なるべき北半部に疎開せしむるに
決し概要左の如く處置せり

イ六丁才以上の老人並に國民學校在學以下の小兒は昭和二十年三
月末迄に北半部に疎開を完了す

軍は北行の空軍輸及空機帆船を以て之が疎開を援助す

爾余の非戦闘員は戦闘勃發必至と判断せらるる時機に軍命令を
以て一舉に北半部に疎開せしむ

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

以上の處置は輸送力の貧弱、住宅の缺乏、食糧の取得難等幾多の
悪條件に構ひせられしも軍官民の協力に依り戦闘開始迄に(1)項に
依るもの約三萬人、(2)項に依るもの亦略々同數に達せり

五現地目活

八 沖繩は國內有數の人口密度大なる島にして米の産額極めて少く農
産物の主体は甘藷にして年々二十萬石の米を台灣より移入せざる
べからざる状態にあり従つて軍は軍自体の爲のみならず島民の
爲にも食糧を島外より集積すると共に極力現地目活に努めたり
食料の外自動車燃料、木造船、輜重車輛、一部藥品等の製造を實
施せるも資源の貧弱、工業力の幼稚等の爲成果見るべきものなく
僅かに甘藷を材料とするアルコール(自動車燃料)月産額三百鐘
に達せるは良成績の部に屬す

九 海上交通長期に亘り遮断せらるる場合の非常對策としては軍官民
總べて甘藷に依存することとせり

本島に於ける甘藷の生産は頗る豊富にして牛、馬、豚等の家畜全
部を屠殺し軍官民の食糧とし且之が飼育に充當しありし甘藷も食
糧に轉用せば沖繩本島に在る軍官民の現地目活は概ね可能と判断
せられたり

六敵情

八 空

昭和二十年一月以降此島を基地とする敵機の一乃至數機を以
る計畫的攻撃は連日實施せられたり當初偵察のみならず是等の
敵機は遂に海上に在る大小の船舶、陸上の自動車等に對しても徹
底的に攻撃を加ふるに至り海陸の交通に至大なる影響を及ぼせり
本期間に及びたる大空襲は次の如く其の來襲機數は各々千機内外
に達せり然れども陸上に於ける我が損害は殆皆無きりしのみなら
ず我が防空部隊の對空戰闘漸次熟練巧妙となり毎回敵に相當の打
撃を加へ得たり